

母性看護学概論

必修

開講年次：2年次後期

科目区分：講義

単位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：周産期のみならず広くライフサイクル各期にある母性とその家族の特性を身体的、心理的、社会的側面から捉え、現代社会に生きる対象について多面的に理解し、母性保健および看護活動について学修する。

■**到達目標**：①母性看護の基盤となる概念が理解できる。
②母性看護の現状と課題が理解できる。
③母性看護の対象特性が理解できる。

■**担当教員**：

宮崎 みち子

■**授業計画・内容**：

- 第1回 母性看護の基盤となる概念 (1) 母性とは リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 母性看護のあり方
第2回 (2) 母性看護と倫理 安全・事故予防 母性看護と看護理論 (含、看護過程)
第3回 母性看護の歴史の変遷と現状 (1) 母性看護の変遷 母子保健統計
第4回 (2) 母性看護と組織・法律 母子保健施策
第5回 母性看護の対象を取り巻く環境—家族 地域社会 生物学的・社会文化的環境
第6回 母性看護の対象理解 (1) 女性のライフサイクルに伴う形態・機能の変化 女性のライフサイクルと家族
第7回 (2) 母性の発達・成熟・継承 父性
第8回 ライフサイクル各期の母性の特徴—思春期 成熟期 更年期 老年期

■**教科書**：森恵美他「系統看護学講座専門分野II 母性看護学[1]母性看護学概論 第12版」(医学書院、2012年)。
授業時に資料を配布予定である。

■**参考文献**：母子衛生研究会編「母子保健の主なる統計 平成27年度刊行」(母子保健事業団、2016年)。

■**成績評価基準と方法**：

- ・授業への参加状況および定期試験による総合評価。
- ・単位修得には総合評価60点以上が必要となる。なお、出席時間が授業時間の2/3に満たない場合、成績評価の対象とはならない。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	①	②	③		
定期試験	◎	◎	◎	内容の理解	100
授業態度	○	○	○	欠席した場合は減点	

◎：より重視する ○：重視する

■**関連科目**：人間発達援助論。また、本科目で修得する知識は、3年次開講の母性看護援助論・母性看護技術論および母性看護学臨床実習の基盤となるものである。

■**その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：母性看護学は、女性の生涯を通じての健康支援に関与する学問です。女性の「生命と人権」、「いのちの誕生」および「性と生殖に関する健康と権利」を尊重した看護実践を目指し、その基盤を共に学修しましょう。